

3年生6号

国語

1. 個人コードと氏名などを、解答用紙に正しく記入しなさい。
2. 答えはすべて解答用紙に記入し、解答用紙だけ提出しなさい。
3. 答えは特別の指示があるもののほかは、ア、イ、ウ、……の中から適切なものを一つ選びなさい。
4. 特別の指示があるもののほかは、句読点や記号なども字数に数えること。

1

次の(1)～(4)の――線部の漢字の読みをひらがなで、(5)～(8)の――線部のカタカナを漢字に直して、ていねいに書きなさい。

- (1) 荒天時の外出は危険だ。
- (2) 経費の削減を目指す。
- (3) 失礼な発言を叱る。
- (4) 悪の芽を摘む。
- (5) 楽器をエンソウする。
- (6) 海外とのボウエキが盛んだ。
- (7) もうすぐ日がくれる時間だ。
- (8) 日傘をサして直射日光を防ぐ。

2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある日、級友の詩織しおりが持ってきた雑誌の表紙に、転校生の波多野透子とよこが載のっていることに気づき、果南かなみたちは驚く。天才少女ピアノストと言われた透子だが、交通事故で指に怪我けがをし、ピアノが弾けなくなったという。その話題で持ち切りになっている最中に、透子本人が現れる。

「怪我はもう、だいじょうぶなの？」

「指が動かなくなっちゃったって、ほんと？」

「ほんとに、もう一生、ピアノ弾けないの？」

好奇心をむきだしにして、みんなが口々にたずねる。とつぜんの質問責めに、透子①はいつものクールな鎧よろいを失い、一瞬いしゆん、とても無防備に見えた。ひよっとすると、泣きだすのではないかと……と、なかば期待するような空気が教室にただよう。

「やめなよ、みんな！」

果南はいきおいよく立ち上がって、さげんだ。その拍子ひょうしに、机の上から、写真週刊誌とヘクラシック・ファンがばさりと落ちる。透子の目が床に落ちた雑誌をとらえ、それから、軽蔑けいべつするように果南をちらりと見て、そのまま何も言わずに自分の席に着いた。②果南は頬ほおにかつと血が上るのを感じた。

なんという間の悪さ。この雑誌をわざわざ学校に持ちこんで、透子の悲劇について、あることないことふれまわったのは、果南だと思われるしまったかもしれない。

③「果南って、ほんとに『いい人』だよねえ」

高木知栄たかぎちえが嫌味いやみな調子でつぶやいた。果南が何か言い訳の言葉を口にしようとしたとき、教室の前のドアががらりと開いて、出席簿しゅっせきぼをかかえた新藤先生しんどうが入ってくる。

それを合図に、みんながいつせいに席に着いた。ひとりだけ、つっ立たったままだった果南は、げげんな表情の新藤先生と目があって、はつと我に返り、あわてて落ちた雑誌を拾い集め、机の中につっこみながら、すわった。

教室のみように張りつめた空気に気がつかないはずなのに、新藤先生は、ほんの少し眉まゆを動かしただけで、何も言わない。透子が転校してきてから、先生はなんだかいつも、こんな調子なのだ。

果南はまるで大嫌いな長距離走ながきりそうのあとみたいに、胸が苦しかった。実体のない痛みをこらえるために、うつむいて、けんめいに唇をかみしめる。

④心の奥にうずく、このわけのわからない感情は、いったい、なんなのだろう？ 透子があまりにも自分のまわりに高い壁かべを築きすぎるから、いくらかばってあげようとしても、どうにもならない。

いや……ちがう。そんなことじゃない。ごまかそうとしたって、むだだ。果南は自分の本当の気持ちに気づいてしまった。波多野透子のこと、が、ねたましくてならない。焼けつくような嫉妬しつとで、息もできないほどに――。

透子の悲劇に同情することなんかできなかった。同情できたら……透子を哀れむことができたなら、きつと、こんなに苦しいはずはないのに。

だれかを哀れむということは、意地悪な見方をすれば、その人の不幸にくらべて、自分のほうが幸せだと、心の中でひそかに確認することかもしれない。

それで言えば、果南には、透子が哀れだなんて少しも思えなかった。波多野透子は生まれながらに神に選ばれた特別な存在で、その悲劇的な事故さえ、この上もなくドラマチック。透子のせいで、自分がただの平凡へいでちっぽけな〈その他大勢〉のひとりに過ぎないということを、いやというほど思い知らされる。

優等生の果南は、今まで、人からねたまれることはあっても、人をねたんだりしたことはなかった。それは、果南が心の広い人間だったからではなく、たぶん、いつだって自分がいちばんだと、なんとなく優越感にひたっていたから。

(あたしって、こんなに嫉妬深い人間だったんだ……！)

その動かしがたい《事実》の発見が、何よりもショックだった。透子さえ転校して来なければ、自分のこんなあさましい一面に気づかないですんだのに――。

今まで果南は自分自身にかなり満足していた。きちんとしていて、勉強もできて、その上、他人にも親切ないい人だと自分でも思っていた。でも、⑤ それがただの錯覚に過ぎないとわかった今、平和でおだやかな日々は永久に失われてしまったのだ。

一時間目の授業がはじまって、先生の声なんか、少しも耳に入らない。果南が考えていたのは、ただ、心の中に芽生えたこのどす黒い感情を、決して、だれにも知られてはならないということだった。

(松本祐子『8分音符のプレリユード』より)

(1) ① 透子はいつものクールな鎧を失い、一瞬、とても無防備に見えたとありますが、「クールな鎧」と同じような内容を表すたとえの言葉を三字で書きぬきなさい。

(2) ② 果南は頬にかつと血が上るのを感じた とありますが、このときの果南の様子として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 透子をめぐるクラスのやっかいごとに巻きこまれてしまったことを悔やみ、この場から逃げだしたいという気持ちを抱いている様子。
イ 詩織ではなく、自分が実際に雑誌を持ちこんでうわさをし始めた張本人だと透子に疑われてしまったことに気づき、激しく怒る様子。
ウ 自分が雑誌を持ちこんで透子のうわさをし始めた張本人だと彼女に誤解され、軽蔑もされたと思い、恥ずかしさを感じている様子。
エ 雑誌を見て透子のうわさをしていたことを彼女に知られて軽蔑されたことに気づき、自分がしたことをひどく恥じている様子。

(3) ③ 果南って、ほんとに《いい人》だよねえ とありますが、ここでの《いい人》という表現の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 果南が状況をよくつかめないままに場違いな言動を繰り返していることをたしなめる表現。

イ 果南がいつも思いやりがあるような優等生的な言動をしているという皮肉をこめた表現。

ウ 果南が自分たちを裏切って透子の味方につこうとしていることに気づき、非難した表現。

エ 果南がだれに対しても優しく接し、信じきっている様子にあきれる気持ちをこめた表現。

(4) ④ 心の奥にうずく、このわけのわからない感情 とは、どのような感情ですか。それについて説明した次の文の a・b にあてはまる言葉を、a は十五字以上二十字以内で探して、はじめと終わりの五字を書きぬき、b は五字で書きぬきなさい。

● 天才少女ピアニストと言われるような、 a の透子が b てならないと思う感情。

(5)

⑤ それがただの錯覚に過ぎないとわかった今、平和でおだやかな日々は永久に失われてしまったのだ。とありますが、この部分に注目して、ある生徒が感想文を書きました。その一部である次の文の□ a～c にあてはまる言葉を、a は八字、b は三字、c は五字で書きぬきなさい。

● 果南は、透子にくらべて自分が□ a 存在であることに気づき、「どす黒い感情」を抱き始めて苦しんでいる。そして、それまで果南がいい人でいられたのは、周りの人に対して□ b を持てたからに過ぎなかったということに気づいたのだ。透子の登場によって自己イメージは打ち砕かれた。しかし、今まで気づかなかった自分の□ c 一面を自覚したということは、果南にとって大きな成長ではないかと感じた。果南に限らない。人はだれでも新しい経験を重ねることで、無自覚な子ども時代の「平和でおだやかな日々」に別れを告げ、一歩一歩大人になっていくのだと思う。

3

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

わたしは最近、雑記帳というのを復活した。一冊の大きなノートに、私的な約束、仕事上のちょっとしたアイデア、会議の記録、読んだ本からの引用、さまざまな備忘録……すべてを書きつける。ただただ時間の順に。

シリーズを廃棄しようとしているのだろうか。分類が破綻したということもあるだろう。が、ひょっとして① パソコンを持ち歩くというのは、こういう感覚なのかもしれないとおもう。ちなみにわたしはパソコンが使いこなせない。

たぶん、しかし、わたしのなかにまだ字面や筆触というもののこのこだわりが残っているのだろう。

筆触といえば、わたしは最近、建築学を教えている知人からおもしろい話を聞いた。いちど別のところで書いたことがあるが、おおよそこんな話である。

彼女は、② パソコンのCADによる製図が家をだめにする、ため息をついていた。

図面を引くというと、わたしたち素人はあの設計用の傾いた製図板をおもう。大きなT字型の定規を当ててインクで線を引くあの光景である。が、近ごろ、そのような道具で製図する若手の設計士はほとんどいないらしい。長方形なら長方形、楕円形なら楕円形の指示をすると③ コンピュータがわずかのぶれもなければ濃淡もない線をきれいに引いてくれる。手わざは要らない。コンピュータ操作に慣れれば、だれでも思いどおりの線が引けるという。

思いどおりの、というのがしかし、問題だ。たとえば柱の組み合わせや窓の形を平行や直角、正方形や楕円という記号でとらえ、さらに壁の色はベージュとか薄緑といった色名で指示すれば、そこに思いどおり家

が描ける。が、そこで、思いどおりというのは頭で考えたまま、イメージしたままということである。

ところが家の佇まいというのは、実際にはからだ全体で感じるものだ。ちゃちな家、窮屈そうな家、偉そうぶった家、安らげる家……。これらは、畳や壁土から漂う匂いとか、木材とか石のさわった感触とか、屋根と壁の角度とか材質がかもす気配とか、そういうものの複合的な効果としてある。そういう建物の細部と佇まいとの関係というのは、それこそからだで憶えるしかないものだ。

線をインクで引くときには、そういうからだの記憶が指先にこもっている。ひそひそ話に耳を傾けるときからだを乗りだし、慰めの言葉をかけるときにふと背中 hands を当てるのと同じように、線を引くというのもそういうからだのさまざまな部位が錯綜するいとなみなのだ。そういうからだの錯綜を通して生まれるのではない線、つまりは記号によって作られた空間に沿って、現在の建物は作られ、そしてそこに住むからだはまたその空間にいつしかなじんでゆく。

建築家の彼女が、CADが建物をだめにすると言ったのは、たぶんそういう意味だろう。

じつさい、道具を貧しくすることで逆にからだのセンサーを磨くという方法、それがわたしたちの文化のなかにはさりげなく挿入されている。写真が発明されても画家たちはやはり、現場でまずスケッチをし、それから描画にとりかかえることをやめなかった。初心者はデッサンの練習をくりかえさせられた。それは線を引くということが、写すことではなく見ることを学ぶためにあったからだ。そしてよく見るというのは、物の佇まいを深く受けとめるために④からだのいろいろな感覚を重層的にそこにかかわらせるすべてを学ぶということだった。

ここまではじぶんの頭でも想像がつく。身体記憶、それはそういうからだのすべてを動員して蓄えられるものであろう。コンピュータが

送ってくるものも指で憶えるということはあるかもしれない。情報遊びという視覚の、あるいは神経のゲームを、キーを押す指の圧力という触覚で補完するように。

しかしそれにしては貧しい、指だけとは……と、はたして言い切れるのか。そんな疑問がふと頭をもたげる。

(鷺田清一『哲学』と『てつがく』のあいだより)

*CAD＝キャド。コンピュータを利用して設計を行うこと。

(1) ① パソコンを持ち歩くというのは、こういう感覚なのかもしれない

ともおもう。とありますが、「こういう感覚」について説明した次の文の□にあてはまる言葉として最も適切なものを、四字で書きぬきなさい。

●すべてのことをただ□に雑記帳に書きつけるような感覚。

(2) ② パソコンのCADによる製図が家をだめにする。とありますが、

それはなぜだと筆者は考えていますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

A CADではだれでも思いどおりの線が引けてしまい、専門家の意見が無視されるから。

I パソコンでは人間の手のように微妙な線を書き分けることはできないから。

U パソコンにたよっているとからだの記憶があいまいになり、家全体をイメージできないから。

E CADによる製図にはからだの記憶がこもっておらず、家の佇まいが感じられないから。

(3) ③ コンピュータがわずかのぶれもなければ濃淡もない線をきれいに

引いてくれる とありますが、これと対照的な線の引き方を述べている部分を二十一字でさがし、はじめと終わりの五字を書きぬきなさい。

(4) ④ からだのいろいろな感覚を重層的にそこにかかわらせるすべてを学ぶとありますが、この内容と同様のことを述べている部分を、同じ

段落から十一字で書きぬきなさい。

(5) この文章の内容をまとめた次の文の a・b にあてはまる言葉として最も適切なものを、a は四字、b は五字でそれぞれ書きぬきなさい。

● 筆者が字面や筆触に a 続けるのは、からだのすべてを使うことで蓄えられる b というものがあるからだ。

4 次の書き下し文と漢文を読んで、あとの問いに答えなさい。

書き下し文

前漢の李広^{ぜんかん}獵^{りくちやう}に出づ。草中^{さうちゆう}の石を見て、以つて虎^{とら}と為して之れを射る。石に中^{あた}りて 。之れを視れば石なり。他日^{たじつ}射るも、終^{つひ}に入るること能はず。

漢文

前漢、李広出獵。①見草中石、以為虎而

射之。中石。②没矢。視之。石也。他日射、

③終不能入。
(『蒙求』より)

(1) ① 見草中石とありますが、書き下し文の読み方になるように返り点をつけなさい。

(2) ② 没矢について、あとの問いに答えなさい。

I にあてはまるように、書き下し文に直しなさい。ただし、漢字は漢字のまま、送りがなはひらがなになおして書くこと。

II 「没矢」とは、矢がささるという意味ですが、石に矢をさすことができたのはなぜですか。その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 石の近くにいた虎をねらっていたところ、ねらいがはずれたから。
イ 石を射ようとしていたところ、近くに虎がいて緊張していたから。
ウ 石を虎に見立てて、自分を窮地に追いこんで射ようとしたから。
エ 石を虎だと思いこんでいて、虎を射ることに集中していたから。

(3) ③ 終 不 能 入

を次から選^レび、記号で答^レえなさい。を現代語に訳したものとして最も適切なものを

ア 矢は石に入^レったまますぐにはぬけなかった。

イ とうとう矢を石に入^レれることはできなかった。

ウ ようやく矢を石に入^レれることに成功した。

エ 矢を石にあてることがなかなかできなかった。

5

次の問いに答^レえなさい。

(1) 次の文の——線部の文節の関係をあとから一つ選^レび、記号で答^レえなさい。

●暗くなる前にあな^レたも家^レに帰^レりなさい。

ア 主・述の関係

イ 修飾・被修飾の関係

ウ 並立の関係

エ 補助の関係

(2) 「賛成」の類義語を次から一つ選^レび、記号で答^レえなさい。

ア 一致 イ 協調 ウ 共同 エ 同意

(3) 次の各組の中から、対義語の組み合わせとして正しくないものを一つ選^レび、記号で答^レえなさい。

ア 需要 ↔ 供給 イ 主観 ↔ 実感

ウ 具体 ↔ 抽象 エ 偶然 ↔ 必然

(4) 次の文の——線部の言葉の意味をあとから一つ選^レび、記号で答^レえなさい。

●手^レが足りなくて処理しきれない。

ア てのひら イ 労働力 ウ 時間

エ 手段 オ 手間